

平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名	長崎県立長崎東中学校	
生徒数	118名	
各教科の状況		
国語 A	概況 改善策	<p>平均正答率は95.6%であり、全国や県の正答率を大きく上回っている。</p> <p>正答率が80%台だったのは、条件にしたがって書き直したり、整理したりする問題であった。今後の授業では、ポイントとなる語句や文を正しく読み取らせたり、話し合いの場面で目的に沿った発言になっているかを意識させたりすることに力を入れていく。</p>
国語 B	概況 改善策	<p>平均正答率は78.0%であり、80%を越えなかった。情報量の多い文章を的確に読み取り、要旨を押さえて表現することが苦手な生徒が予想より多かった。今後の授業では、接続詞やキーワードに注目させて、筆者の意見を正確にとらえさせた上で、表現する場面を多く設定する。</p>
数学 A	概況 改善策	<p>平均正答率は90.6%であり、全国や県の正答率を大きく上回っている。</p> <p>しかし、問題文の意味を十分理解できず誤った式を立てたり、用語の意味を正しく理解していなかったりする生徒がいた。今後は、これまで以上に授業の中で細かく確認し、基礎事項の定着を図る。</p>
数学 B	概況 改善策	<p>平均正答率は86.9%であり、全国や県の正答率を大きく上回っている。</p> <p>しかし、説明や証明をする問題の一部で約30%の生徒が不完全な解答をした。今後は、生徒同士で説明しあう場面を意図的に設定するとともに、論理的で分かりやすい証明を記述させるなど、言語活動を取り入れながら、学力の充実を図る。</p>
質問紙調査の 状況	<p>全般的にテレビ等視聴する時間やゲーム等を行う時間は全国に比べ少なく、家庭における学習時間は多い傾向にある。また、読書好きという傾向も高い。しかし、国語の学習に対する意識が低い傾向にある一方、数学の学習に対する意識は高く、教科間で学習意欲に違いが見られる。</p>	

平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名		長崎県立佐世保北中学校
生徒数		111名
各教科の状況		
国語 A	概況 改善策	平均正答率は 96.2% であった。基本的な語彙力は身に付いているが、二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理することが、他の問題に比べるとできていなかった。今後、グループの中で異なる立場で意見が交換できる課題を設定し、その相違点をまとめる活動などを工夫していく。
国語 B	概況 改善策	平均正答率は 79.4% であった。基本的な読む力、書く力は付いているが、複数の資料を比較して読み、その相違点を明らかにすることができていないので、国語 A と同様の取組をする。資料などを基に、分かりやすい文章を書くことができていない生徒も多いので、卒業論文を作成するなかで、事実と意見の違い、読み手を意識した分かりやすい説明の工夫などを指導していく。
数学 A	概況 改善策	平均正答率は 93.1% であった。知識はある程度身に付いているが、ミスの目立つ生徒も見られるので、丁寧に解答することを指導していく。また、文章題から立式する、資料から情報を得るなど、文章を読んで考えるところに間違いが集中しているので、日頃から注意深く思考する習慣を身に付けさせていく。
数学 B	概況 改善策	平均正答率は 89.5% であった。ほとんどの生徒が満点ないし 1 問ミスであるが、理解が不十分な生徒への丁寧な指導を心がける。知識はあるものの、その理解が不十分な点が、グラフからの読み取りや、正しい説明を選択できない結果につながっていると考えられるので、反復演習だけでなく、質の良い問題を準備し、しっかりと取り組ませしていく。
質問紙調査の 状況		家庭学習時間は、平日 2 時間以上が 63%、休日 3 時間以上が 87% と全国の状況と比べるとかなり確保できている。しかし、その内容は、学校の宿題が 97% に対して、授業の予習や復習が約 60% と少ないので、家庭学習の内容を見直させる必要がある。今後、自主的に学習する習慣を身に付けさせる指導を充実させていく。

平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名	長崎県立諫早高等学校附属中学校	
生徒数	120名	
各教科の状況		
国語 A	概況 改善策	<p>平均正答率は96.5%であり、全国や県の正答率を大きく上回っている。</p> <p>登場人物の心情を効果的に表現すること、文章全体と部分との関係を考え内容を理解することがよくできている。しかし、二者の意見の相違点の理解が十分でない生徒がいたので、グループでの意見交換と言語活動の内容を検討して改善に取り組む。</p>
国語 B	概況 改善策	<p>平均正答率は81.6%であり、全国や県の正答率を大きく上回っている。</p> <p>伝統的な文章(落語)の登場人物の言動から人物像をとらえることがよくできている。しかし、資料を活用して要旨を捉えたり、伝えたいことを書いたりする力が十分でない生徒がいるので、条件を課した作文を書く際に出題の仕方を工夫するなどして改善に取り組む。</p>
数学 A	概況 改善策	<p>平均正答率は94.4%であり、全国や県の正答率を大きく上回っている。</p> <p>空間図形における底面積と高さ、体積の関係を正しく理解できている。しかし、平面図形における回転移動の性質について理解が十分でないため、実際に図形を移動させて理解を深めさせる改善に取り組む。</p>
数学 B	概況 改善策	<p>平均正答率は90.0%であり、全国や県の正答率を大きく上回っている。</p> <p>グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を利用して問題を解決する方法を説明することができている。しかし、平面図形において、ある条件の下で、証明したことを問題解決に用いることが十分にはできていないので、条件と証明内容の関係に着目させ改善に取り組む。</p>
質問紙調査の 状況		<p>学習習慣が定着し、計画的に学習に取り組んでいるが、予習に比べて復習ができていると認識している生徒の割合が少ないので、学習内容・学習方法について指導する。メディアへの接触時間は、全体的には短いですが、スマートフォン等の使用が2時間を超える生徒が1割程度いるので家庭と協力して改善する。</p>